

ディスクロージャー資料

業務および財産の状況に関する説明書類

あおい少額短期保険株式会社

平成28年7月1日

目 次

I. 会社の概況および組織について	2
1. 企業理念	
2. 会社の特色	
3. 経営の組織	
4. 株主の状況	
5. 取締役および監査役の状況	
II. 主要な業務の内容について.....	5
1. 保険商品について	
2. 主要な業務の内容	
III. 主要な業務の状況について	6
1. 平成27年度における業務の概況	
2. 業務の状況を示す指標等	
3. 責任準備金の残高	
IV. 会社の経営および運営について	12
1. リスク管理の体制	
2. 法令遵守（コンプライアンス）の体制	
3. 指定少額短期保険業務紛争解決機関について	
V. 財産の状況について.....	14
1. 計算書類	
2. 保険金等の支払能力の充実の状況	
3. 有価証券または金銭の信託に関する取得価額または契約価額、時価および評価 損益	
4. 公衆の縦覧に供する書類について会社法による会計監査人の監査	
5. 計算書類について公認会計士または監査法人の監査証明	

I. 会社の概況および組織について

1. 企業理念

● あおい少額短期保険株式会社の企業理念

私たちは「一人ひとりのお客様のご要望をかたちにする」という経営理念に基づきすべてのお客様がよりよく生きるお手伝いをさせていただき生活支援企業を目指します。

● 経営方針

- ①環境の変化に迅速・果敢に挑戦し、常に社会のニーズを先取りし、新しい価値の創造に努めます。
- ②お客様の最大の満足を創るために、お客様の目線に立った心のこもった正確・迅速かつ丁寧なサービスをお届けします。
- ③コンプライアンスを重視し、公正で誠実な企業活動を展開します。

2. 会社の特色

● あおい少額短期保険について

あおい少額短期保険株式会社は、平成 18 年 4 月の改正保険業法の施行を契機に少額短期保険業者の登録に向けての準備を行い、平成 21 年 2 月に準備会社を設立し同 9 月に四国財務局長(少額短期保険)第 1 号として登録を完了し、営業を開始いたしました。

3. 経営の組織

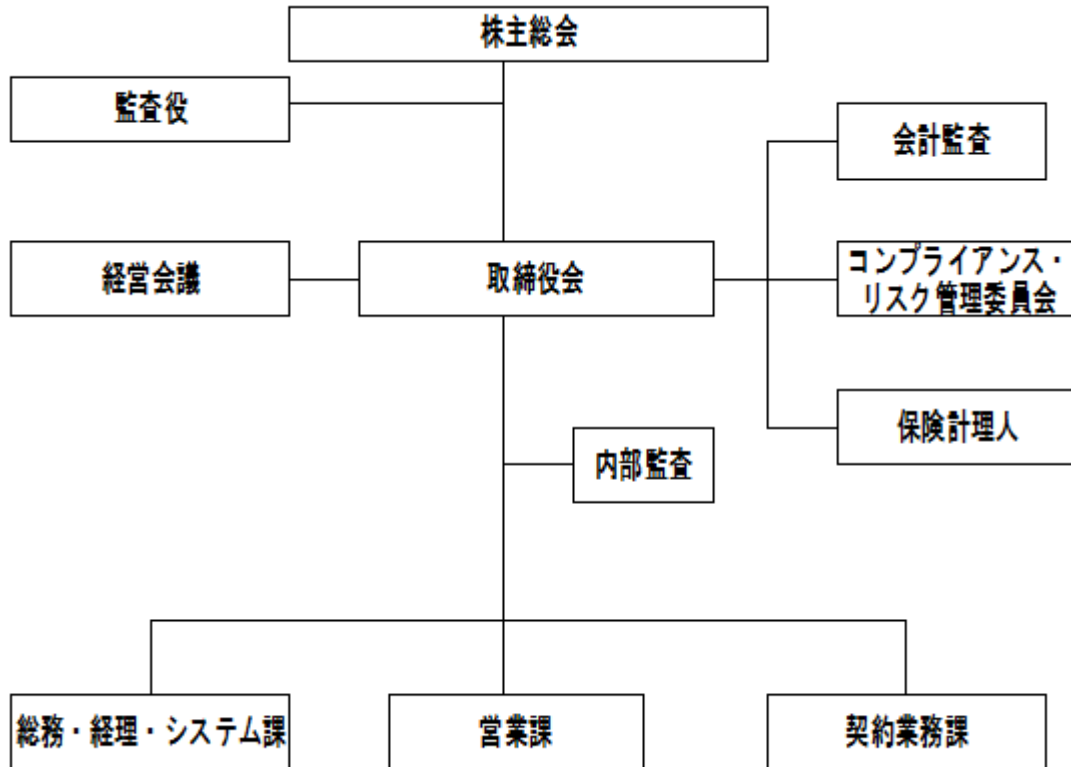
(1) 所在地

【本店】 〒770-0843 徳島県徳島市両国本町 2-12-1

平成 28 年 7 月 1 日 現在、本店以外の事務所はありません。

(2) 組織図

(平成 28 年 7 月 1 日現在)



4. 株主の状況

(1) 資本金の推移

年月日	増資額	増資後資本金
平成 21 年 2 月 1 日	30,000 千円	30,000 千円

(2) 株式の総数 (平成 28 年 7 月 1 日現在)

発行可能株式総数	2,400 株
発行済株式の総数	600 株
当期末株主数	1 名

(3) 発行済株式の種類等 (平成 28 年 7 月 1 日現在)

	種類	発行数	内容
発行済株式	普通株式	600 株	

(4) 主要な株主（平成 28 年 7 月 1 日現在）

株主の氏名又は名称	当社への出資状況	
	持株数等	持株比率
株式会社 イマデヤ	6 百株	100%

5. 取締役および監査役の状況（平成 28 年 7 月 1 日現在）

氏 名	地位及び担当	重要な兼職	そ の 他
香 川 宗 敬	代表取締役社長	なし	—
今出佐知子	取締役	(株)イマデヤ専務取締役	—
中 田 祐 児	取締役	弁護士法人中田・島尾 法律事務所	—
今出 貴士	監査役	(株)イマデヤ代表取締役	—

II. 主要な業務の内容について

1. 保険商品について

名称	ご利用の目的
1年定期生命保険	保険期間中に被保険者がお亡くなりになった場合に死亡保険金が支払われます。

2. 主要な業務の内容

① 少額短期保険業

III. 主要な業務の状況について

1. 平成 27 年度における業務の概況

● 当該事業年度における事業の経過および成果

あおい少額短期保険株式会社は、商品内容を理解しやすく、簡易な手続きで加入できる保険として死亡保障を設計し、提供しております。

平成 27 年度の世界経済を振り返ると、中国など新興国の景気減速や原油をはじめとする資源価格の低迷などが目立った一年でした。一方、国内景気をみますと、輸出や設備投資が伸び悩みましたが、個人消費は底堅い動きを示し、雇用情勢も改善が続くなど、景気は一部に弱さがみられるものの緩やかな回復基調で推移しました。

徳島県内経済は、有効求人倍率が過去最高水準で推移し、個人消費も堅調が続いたものの、公共工事が減少したほか、企業の生産活動も低調な動きから脱せず、景気は緩やかな回復から概ね横ばいに下方シフトした状況にあります。

また、当社の主要市場である葬祭市場において、「終活」に関するテーマがとりあげられ、高齢者層を中心に社会的関心が高まりをみせています。また、この 10 年間で葬儀市場の売上が 2 倍以上にまで成長していることや 2050 年までは安定的に葬儀需要が見込まれるため、異業種からの新規参入や新規出店に伴う顧客獲得競争が激化しております。しかしながら、死亡年齢の上昇による老々葬儀の増加や会葬者の減少、家族葬等社会構造の変化に伴う葬儀の小型化傾向が顕著にあらわれました。また、消費者の価値観やニーズの多様化から葬儀単価は下落傾向にあります。

このような経済状況のもと、あおい少額短期保険株式会社におきましては、保険料 38,343 千円(対前年比 109.5%)、保有契約件数 2,194 件(対前年比 110.1%)と順調に増加しており、経常収益も 38,480 千円、対前年比 109.8%と良好な実績を維持していると考えます。

● 対処すべき課題

販売マーケットについては、既存代理店の契約件数の前年度対比の伸び率がイマダヤ 94.5%、アイルセレモニー150%、県西企画 71.4%とばらつきはありますが、各代理店において着実に実績を作っております。今後も、「一人ひとりのお客様のご要望をかたちにする」という経営理念に基づき、お客様に寄り添ったサポートや提案ができるよう研修会の実施や営業手法の確立を行ってまいります。また、既存顧客へは、募集人が年に 1 度は連絡を取り、アフターケアをすることで身近な存在となり、継続率 UP に努め新たな顧客の紹介につながるような信頼関係を築いていきます。

また、新規代理店の開拓につきましては、昨年同様事故率の上昇等のリスクを鑑み、慎重に進めていく必要があると考えております。

コンプライアンスにおいては開業以来クレームゼロであり、コンプライアンス上問題が発生しておりませんが、引続き、コンプライアンス遵守の徹底・監督を行ってまいります。

2. 業務の状況を示す指標等

(1) 直近の3事業年度における主要な業務の状況を示す指標等

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
経常収益	35,269 千円	35,034 千円	38,480 千円
経常利益(損失)	-1,831 千円	-4,733 千円	5,619 千円
当期純利益(損失)	-2,100 千円	-5,010 千円	5,334 千円
資本金の額 (発行済株式の総数)	30,000 千円 600 株	30,000 千円 600 株	30,000 千円 600 株
保険業法上の純資産 額	24,466 千円	19,456 千円	24,790 千円
総資産額	44,300 千円	48,188 千円	54,360 千円
責任準備金残高	2,949 千円	10,525 千円	11,170 千円
有価証券残高	—	—	—
ソルベンシー・マージン比率	3341.1%	2443.1%	3645.2%
配当性向	—	—	—
従業員数	2	2	2
正味収入保険料の額	31,486 千円	34,992 千円	38,341 千円

(2) 直近2事業年度における業務の状況を示す指標等

● 主要な業務の状況を示す指標等

① 正味収入保険料および元受正味保険料

	平成 26 年度	平成 27 年度
正味収入保険料	34,992 千円	38,341 千円
元受正味保険料	34,992 千円	38,341 千円

② 支払再保険料

当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

③ 保険引受利益

	平成 26 年度	平成 27 年度
保険引受利益	-2,558 千円	7,536 千円

※保険引受利益とは保険引受利益から保険金等支払金、責任準備金繰入額および保険引受に係る営業費および一般管理費を控除したものです。

④ 正味支払保険金および元受正味保険金

	平成 26 年度	平成 27 年度
正味支払保険金	15,926 千円	16,342 千円
元受正味保険金	15,926 千円	16,342 千円

※ 正味支払保険金とは、保険金および給付金から回収再保険金を控除したものです。
元受正味保険金とは、保険金および給付金を合算したものです。
なお、平成 26 年度、平成 27 年度において回収再保険金は、発生していません。

⑤ 回収再保険金

当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

● 保険契約に関する指標等

① 契約者配当金

当社は、契約者配当を行っていません。

② 正味損害率および正味事業費率ならびにその合算率

	平成 26 年度	平成 27 年度
正味損害率	45.5%	42.6%
正味事業費率	44.1%	41.4%
正味合算率	89.6%	84.0%

※ 正味損害率とは、正味支払保険金を正味収入保険料で除したものです。
正味事業費率とは、正味事業費を正味収入保険料で除したものです。
正味事業費とは、事業費に保険業法第 113 条繰延資産償却費を加え、保険業法第 113 条繰延額および再保険手数料を控除したものです。なお、平成 26 年度、平成 27 年度において再保険金手数料は、発生していません。
正味合算率とは、正味損害率および正味事業費率を合算したものです。

③ 再保険に付した部分の控除を考慮しない発生損害額および損害調査費の合計額ならびに事業費の既経過保険料に対する割合およびその合算率

	平成 26 年度	平成 27 年度
発生損害額・損害調査費/既経過保険料	46.6%	42.4%
事業費/既経過保険料	42.9%	41.6%
合算率	89.5%	84.0%

※ 当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

ここでいう事業費とは、事業費に保険業法第 113 条繰延資産償却費を加えたものから保険業法第 113 条繰延額を控除したものです。

④ 再保険を引受けた主要な保険会社等

当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

⑤ 再保険を引受けた保険会社等のうち上位 5 社に対する支払再保険料割合

当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

⑥ 再保険を引受けた主要な保険会社等の指定格付機関等による格付けごとの支払再保険料割合

当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

⑦ 未収再保険金

当社は、すべての保険契約について再保険契約を締結していません。

● 経理に関する指標等

① 支払備金および責任準備金

平成 26 年度		平成 27 年度	
支払備金	責任準備金	支払備金	責任準備金
1,530 千円	10,525 千円	1,400 千円	11,170 千円

② 利益準備金および任意積立金の残高

平成 26 年度		平成 27 年度	
利益準備金	任意積立金	利益準備金	任意積立金
—	—	—	—

③ 損害率の上昇に対する経常損失の変動

損害率上昇の過程	損害率上昇の仮定 発生損害率が 1% 上昇すると仮定します。
計算方法	増加する発生損害額 (△S) = 既経過保険料 × 1%

	増加する IBNR 支払備金 (Δ IBNR) $= \Delta S \times (\text{前年度の既発生未報告支払備金積立所要額})$ $\div (\text{前年度支払保険金等}^{\ast} + \text{前年度普通支払備金}^{\ast})$ * 当年度内に発生した保険事故に限る。 経常損失の増加額 $= \Delta S + \Delta$ IBNR	
経常損失の増加額	平成 26 年度	平成 27 年度
	360 千円	382 千円

● 資産運用に関する指標等

① 運用資産残高

	平成 26 年度		平成 27 年度	
	残高	構成比	残高	構成比
現預金	29,570 千円	61.4%	37,627 千円	69.2%
金銭信託	—	—	—	—
有価証券	—	—	—	—
運用資産計	29,570 千円	61.4%	37,617 千円	69.2%
総資産	48,188 千円	100.0%	54,360 千円	100.0%

② 利息配当収入および運用利回り

	平成 26 年度		平成 27 年度	
	利息配当収入	運用利回り	利息配当収入	運用利回り
現預金	5 千円	0.0%	7 千円	0.0%
金銭信託	—	—	—	—
有価証券	—	—	—	—
小計	5 千円	0.0%	7 千円	0.0%
その他	—	—	—	—
合計	5 千円		7 千円	

※ 現預金の運用利回りとは、利息配当収入を月平均現預金残高で除したものです。

③ 保有有価証券の種類別残高

保有有価証券はありません。

④ 保有有価証券利回り

保有有価証券はありません。

⑤ 有価証券の種類別残存期間別残高
保有有価証券はありません。

3. 責任準備金の残高

	普通責任準備金	異常危険準備金	契約者配当準備金等	合計
平成 26 年度	10,430 千円	95 千円	—	10,525 千円
平成 27 年度	11,039 千円	131 千円	—	11,170 千円

※ 普通責任準備金には、収支残の金額を積立としています。

IV. 会社の経営および運営について

1. リスク管理の体制

● リスク管理の基本方針

当社は、業務運営上考えられる様々なリスクを把握し、各種リスクに対し全社横断的なリスク管理体制を構築します。適切なリスク・コントロールを通じて、業務の健全性および適切性を確保し、保険契約者等の保護を図ります。

● リスク管理体制

当社は、リスク管理の基本方針に則したリスク管理を実現するため、リスク管理体制の強化に努めています。少額短期保険業者は、さまざまなリスクをかかえていますので、その特性に応じた管理を行うとともに、統合的な視点による管理を行う必要があります。当社では、これらを両立させた適切な管理を実施しています。

当社は、リスクの種類に応じて管理責任部を配置することにより、リスクの特性に応じた管理を行っています。そして各リスクの状況は、定期的にリスク管理委員会に集約されます。リスク管理委員会では、リスク管理に関する情報の集約と方針の決定を一元的に行っており、これにより全社横断的な管理を実現しています。リスク管理委員会は、代表取締役が委員長を務め、各リスクの管理責任課の責任者を委員としています。

● 当社のかかえる代表的なリスク

① 保険引受リスク 経済情勢や保険事故の発生率等が保険料設定時の予測に反して変動することにより、当社が損失を被るリスクをいいます。

② 資産運用リスク 少額短期保険業者の資産運用については、財務の健全性の確保の観点から預貯金等の安全資産に限定した運用が求められていますが、経済情勢等により運用資産が減少したり、資産の預入先が破綻したりすることにより、当社が損失を被るリスクをいいます。

③ 流動性リスク 保険料収入等の状況により、資金繰りに支障をきたすリスクをいいます。

④ 事務リスク 当社の役職員および少額短期保険募集人が正確な事務を怠る、または事故・不正等を起こすことにより、当社が損失を被るリスクをいいます。

⑤ システムリスク コンピュータシステムのダウンまたは誤作動等のシステムの不備等にともない、またはコンピュータが不正に使用されることにより、お客さまや当社が損失を被るリスクをいいます。

2. 法令遵守（コンプライアンス）の体制

● コンプライアンス体制

金融の自由化や規制緩和の流れの中、法令や社会規範を守ることの重要性はますます高まってきています。当社は、少額短期保険業者としての社会的責任や保険契約者等の保護の観点からコンプライアンス態勢の強化は重要なテーマであると認識しています。

当社は、役職員の一人ひとりが法令等および社内規程等の基本ルールを守り、日々の業務を遂行することをコンプライアンスとして定義しています。そして適正に業務を遂行するためにコンプライアンス体制を整備し、適切に運営することを経営の重視課題と捉えています。

● コンプライアンスの組織体制

当社は、コンプライアンス体制の強化を図り、少額短期保険業者として社会的責任を果たすために、取締役会の諮問機関としてコンプライアンス統括担当を設置し、コンプライアンスの推進に取り組んでいます。

取締役会は、コンプライアンスに関する重要事項を決定するほか、コンプライアンス委員会を通じて重要な報告を受けることにより、常にコンプライアンスを重視した経営に努めています。

また、監査役は、独立した立場から、取締役の業務執行状況を含む会社の監査を実施し、株主総会・取締役会に報告します。

さらに、各課の課長は、コンプライアンス・オフィサーとしてコンプライアンス環境を整備し、絶えず職場でのコンプライアンス推進状況に注意と関心を払い、教育指導に努めています。

3. 指定少額短期保険業務紛争解決機関について

弊社はお申し出いただいた苦情等につきましては、解決に向けて真摯な対応に努める所存でございます。なお、お客様の必要に応じ、弊社加入協会の「少額短期ほけん相談室」をご利用いただくこともできますので、あわせてお知らせ申し上げます。

【指定紛争解決機関】

一般社団法人日本少額短期保険協会 「少額短期ほけん相談室」

電話(フリーダイヤル) 0120-82-1144

F A X : 03-3297-0755

受付時間 : 9:00~12:00、13:00~17:00

受付日 : 月曜日から金曜日(祝日および年末年始休業期間を除く)

V. 財産の状況について
1. 計算書類
(1) 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	平成 26年度	平成 27年度	科 目	平成 26年度	平成 27年度
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	29,570	37,627	保険契約準備金	12,055	12,570
現金	—	9	支払備金	1,530	1,400
預貯金	29,570	37,617	責任準備金	10,525	11,170
有価証券	—	—	代理店借	—	—
国債	—	—	再保険借	—	—
地方債	—	—	短期社債	—	—
その他の証券	—	—	社債	—	—
有形固定資産	—	—	新株予約権付社債	—	—
土地	—	—	その他負債	16,677	17,000
建物	—	—	借入金	—	—
リース資産	—	—	未払法人税等	245	250
建設仮勘定	—	—	未払金	16,360	16,701
その他の有形固定 資産	—	—	未払費用	—	—
無形固定資産	—	—	前受収益	26	3
ソフトウェア	—	—	預り金	46	46
のれん	—	—	リース債務	—	—
リース資産	—	—	資産除去債務	—	—
その他の無形固定 資産	—	—	仮受金	—	—
代理店貸	—	—	その他の負債	—	—
再保険貸	—	—	退職給付引当金	—	—
その他資産	7,618	5,733	役員退職慰労引当金	—	—
未収金	—	—	価格変動準備金	—	—
未収保険料	—	—	繰延税金負債	—	—
前払費用	—	—			
未収収益	—	—	負債の部 合計	28,732	29,570
仮払金	—	—	(純資産の部)		

保険業法第 113 条繰延資産	7,323	5,492			
その他の資産	295	241	資本金	30,000	30,000
繰延税金資産	—	—	新株式申込証拠金	—	—
供託金	11,000	11,000	資本剰余金	—	—
			資本準備金	—	—
			その他資本剰余金	—	—
			利益剰余金	△10,544	△ 5,210
			利益準備金	—	—
			その他利益剰余金	—	—
			・ ・ 積立金	—	—
			繰越利益剰余金	△10,544	△ 5,210
			自己株式	—	—
			自己株式申込証拠金	—	—
			株主資本合計	—	—
			その他有価証券	—	—
			評価差額金		
			繰延ヘッジ損益	—	—
			土地再評価差額金	—	—
			評価・換算差額等	—	—
			合計		
			新株予約権	—	—
			純資産の部 合計	19,456	24,790
資産の部合計	48,188	54,360	負債及び純資産の部 合計	48,188	54,360

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	平成 26 年度	平成 27 年度
経常収益	35,034	38,480
保険料等収入	35,028	38,343
保険料	35,028	38,343
再保険収入		
回収再保険金		
再保険手数料		

再保険戻戻金		
その他再保険収入		
支払備金戻入額		130
責任準備金戻入額		
資産運用収益	5	7
利息及び配当金等収入	5	7
その他運用収益		
その他経常収益	1	1
経常費用	39,767	32,861
保険金等支払金	15,962	16,344
保険金等	15,926	16,342
解約戻戻金等	36	2
契約者配当金		
再保険料		
責任準備金等繰入額	8,389	644
支払備金繰入額	813	
責任準備金繰入額	7,576	644
資産運用費用		
事業費	13,585	14,042
営業費及び一般管理費	13,235	13,949
税金	87	93
減価償却費	263	
退職給付引当金繰入額		
その他経常費用	1,831	1,831
保険業法第 113 条繰延額 (△)		
経常利益 (又は経常損失)	△4,733	5,619
特別利益		
特別損失		
価格変動準備金繰入額		
その他特別損失		
契約者配当準備金繰入額		
税引前当期純利益 (又は税引前当期純損失)	△4,733	5,619
法人税及び住民税	277	285
法人税等調整額		
法人税等合計	277	285
当期純利益 (又は当期純損失)	△5,010	5,334

(3) 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

科 目	平成 26 年度	平成 27 年度
株主資本		
資本金	30,000	30,000
当期首残高		
当期変動額		
新株の発行		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高	30,000	30,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高		
当期変動額		
新株の発行		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
その他資本剰余金		
当期首残高		
当期変動額		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
資本剰余金合計		
当期首残高		
当期変動額		
新株の発行		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高		

当期変動額		
剰余金の配当		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
その他利益剰余金		
・・積立金		
当期首残高		
当期変動額		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
繰越利益剰余金		
当期首残高	△5,534	△10,544
当期変動額	△5,010	5,334
剰余金の配当		
当期純利益	△5,010	5,334
.....		
当期変動額合計	△5,010	5,334
当期末残高	△10,544	△5,210
利益剰余金合計	△10,544	△5,210
当期首残高	△5,534	△10,544
当期変動額	△5,010	5,334
剰余金の配当		
当期純利益	△5,010	5,334
.....		
当期変動額合計	△5,010	5,334
当期末残高	△10,544	△5,210
自己株式		
当期首残高		
当期変動額		
自己株式の処分		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
株主資本合計		

当期首残高		
当期変動額		
新株の発行		
剰余金の配当		
当期純利益		
自己株式の処分		
.....		
当期変動額合計		
当期末残高		
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高		
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		
当期変動額合計		
当期末残高		
繰越ヘッジ損益		
当期首残高		
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		
当期変動額合計		
当期末残高		
土地再評価差額金		
当期首残高		
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		
当期変動額合計		
当期末残高		
評価・換算差額等合計		
当期首残高		
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		
当期変動額合計		
当期末残高		
新株予約権		
当期首残高		

当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		
当期変動額合計		
当期末残高		
純資産合計		
当期首残高	24,466	19,456
当期変動額		
新株の発行		
剰余金の配当		
当期純利益	△5,010	5,334
自己株式の処分		
.....		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	△5,010	5,334
当期末残高	19,456	24,790

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	平成 26 年度	平成 27 年度
営業活動によるキャッシュ・フロー		
保険料の収入	35,028	38,343
再保険による収入		
保険金等支払による支出	△ 15,926	△ 16,342
解約返戻金等支払による支出	△ 36	△ 2
再保険料支払による支出		
事業費の支出	△ 13,322	△ 14,042
その他	209	372
小 計	5,953	8,329
利息及び配当金等の受取額	5	7
利息の支払額		
契約者配当金の支払額		
その他	1	1

法人税等の支払額	△ 273	△ 280
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,686	8,057
投資活動によるキャッシュ・フロー		
預貯金の純増減額 (△は増加)		
有価証券の取得による支出		
有価証券の売却・償還による収入		
保険業法第 113 条繰延資産の取得による支出		
その他		
投資活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入れによる収入		
借入金の返済による支出		
社債の発行による収入		
社債の償還による支出		
株式の発行による収入		
自己株式の取得による支出		
配当金の支払額		
その他		
財務活動によるキャッシュ・フロー		
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,686	8,057
現金及び現金同等物期首残高	23,884	29,570
現金及び現金同等物期末残高	29,570	37,627

2. 保険金等の支払能力の充実の状況

平成27年度決算状況表 あおい少額短期保険株式会社

8 保険金等の支払能力の充実の状況を示す比率（SM比率）（1）総括表

（単位：千円、％）

	前期	当期
(1) ソルベンシー・マージン総額	12,228	19,429
① 純資産の部の合計額（繰延資産等控除後の額）	12,133	19,298
② 価格変動準備金		
③ 異常危険準備金	95	131
④ 一般貸倒引当金		
⑤ その他有価証券評価差額（税効果控除前）（99％又は100％）		
⑥ 土地の含み損益（85％又は100％）		
⑦ 契約者配当準備金の一部（除、翌期配当所要額）		
⑧ 将来利益		
⑨ 税効果相当額		
⑩ 負債性資本調達手段等		
告示(第14号)第2条第3項第5号イに掲げるもの(⑩(a))		
告示(第14号)第2条第3項第5号ロに掲げるもの(⑩(b))		
(2) リスクの合計額 $\sqrt{R_1^2+R_2^2}+R_3+R_4$	1,001	1,068
保険リスク相当額	919	955
R1 一般保険リスク相当額	919	955
R4 巨大災害リスク相当額		
R2 資産運用リスク相当額	296	376
価格変動等リスク相当額		
信用リスク相当額	296	376
子会社等リスク相当額		
再保険リスク相当額		
再保険回収リスク相当額		
R3 経営管理リスク相当額	36	40
(3) ソルベンシー・マージン比率 (1)/ {(1/2)×(2)}	2,443.1	3,645.2

3. 有価証券または金銭の信託に関する取得価額または契約価額、時価および評価損益（平成28年3月31日現在）

当社は、平成27年度末において、有価証券および金銭信託を保有していません。

4. 会社法による会計監査人の監査

公共の縦覧に供する書類について会社法による会計監査人の監査を受けていません。

5. 金融商品取引法にもとづく公認会計士または監査法人の監査証明
貸借対照表、損益計算書および株主資本等変動計算書について、金融商品取引法第 193
条の 2 の規定にもとづき公認会計士または監査法人の監査証明を受けていません。

あおい少額短期保険株式会社
〒770-0843 徳島県徳島市両国本町 2-12-1